

明治、大正、昭和初期の子ども向け雑誌のデジタル化

一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団（IICLO）

概要

明治、大正、昭和初期の子ども向け絵雑誌には多くのマンガや絵物語が掲載されており、同時代や後代のマンガ家・画家等に少なからず影響を与えたことはよく知られている。しかし、資料の所蔵機関が少ないことからその全貌は明らかではなく、現代のマンガ文化等との影響関係を論じることを困難にしている。そのような状況の中、大阪府立中央図書館国際児童文学館には『月刊子供マンガ』『良友』、幼女向けや画報系の雑誌など、明治期から昭和初期に発行された多くの貴重な児童雑誌が所蔵されており、国際児童文学館にしか所蔵がない巻号も多く含まれる。

資料の劣化が激しいこれらの雑誌をデジタル画像化し、内容目次を含めて公開することは我が国のメディア文化の発展に大きな意義がある。

そこで、本事業では『月刊子供マンガ』『良友』、幼女向けの雑誌や画報系等の雑誌の保存のためのデジタル化、内容目次の入力を行う。

経緯

当財団では、これまでも独自に明治期の少年雑誌『少年世界』（博文館）などの目次入力を行っており、現在も継続しているが、同時に、平成28年度から文化庁所管の文化芸術振興費補助金（メディア芸術アーカイブ推進支援事業）を受けて子ども向け雑誌のデジタル画像化、および内容目次入力を行ってきた（五十音順）。

＜これまでの対象雑誌＞

『お伽絵解こども』、『コドモアサヒ』、『子供之友』、『コドモの本』、『小学女生』、『小学男生』、『少女倶楽部』、『少年少女譚海』、『新少年』、『中学世界』、『幼年画報』、『幼年世界』、『幼年の友』

今回の対象資料について

	雑誌名	発行者	所蔵部数
1	美しい幼女	ポケット講談社	2
2	オトギ畫報	集栄館	1
3	おとぎ画報	通信家庭幼稚園	1
4	教育画報 ハート	滑稽新聞社	1
5	クレヨン画報	旭光社	1
6	月刊子供マンガ	子供マンガ新聞社	26
7	コドモ	コドモ社	68
8	児童画報	児童画報社	3

9	少女智識画報	近事画報社	5
10	少年画報	少年画報社	1
11	少年写真画報	郁文舎	2
12	少年少女画報	東京社	1
13	少年少女智識画報	近事画報社	3
14	少年智識画報	近事画報社	14
15	新幼年	新幼年社	4
16	スカウトグラフ 少年少女の写真画報	国際スカウト研究会	1
17	タノシキ幼女	盛進社	2
18	ベニスズメ幼女友達	中央商行マナビ社	1
19	幼女	文武堂	1
20	幼女系雑誌	博文館	26
21	幼女エバナシ	文武堂	8
22	幼女絵嚟	文武堂	1
23	幼女界	正光社	1
24	幼女画報	二葉社	9
25	幼女クラブ	文教社	6
26	幼女号	小学新報社	15
27	幼女の家	東京社	3
28	幼女の世界	歌舞社	7
29	幼女の園	ヨウネン社	11
30	幼女の友	幼女の友社	114
31	幼女の友	暁書房	1
32	幼女の花	チルドレン社	8
33	幼年幼女	博英社	8
34	良友	コドモ社	97
遡 及 分	お伽絵解 こども	児童美育会	1
	コドモアサヒ	朝日新聞社	1
	子供之友	婦人之友社	1
	新少年	博文館	2

	中学世界	博文館	3
			461

体制／手法

- ・大阪府立中央図書館国際児童文学館との対象資料の確認。
- ・当財団専門職員及び入力スタッフで、内容目次入力とチェック
（内容目次入力に関しては、本文をすべて参照し、サインなども確認しながら、雑誌に書かれている目次と本来の内容との差異についても備考などに記載している。）
- ・専門家による助言、指導
- ・デジタル化の発注

成果

（成果物）

- ・『月刊子供マンガ』他の 461 点の雑誌の画像データ
- ・『月刊子供マンガ』他の 461 点の雑誌の画像からの紙焼きデータ
- ・『月刊子供マンガ』他の 461 点の雑誌の内容目次データ

（公開方法）

- ・紙焼きデータ：大阪府立中央図書館国際児童文学館内にて閲覧
- ・内容目次データ：文化庁メディア芸術データベースでの利用
国際児童文学館への提供、レファレンス等での利用

（残された課題）

- ・画像データのオンラインでの公開：著作権等権利関係の整理、公開の仕組みづくり
- ・内容目次データの公開：独自の公開ツールの開発

（文化的・社会的・経済的な意義）

- ・上記資料群は、国内に 1 冊しか所蔵がない号も多く、明治期～昭和初期に発行された雑誌であるため、劣化が激しく保存のためのデジタル化が行われることは、文化財保護のために急務である。また、複製の公開が実現できれば利用促進も期待できる。
- ・雑誌の内容目次の入力によって、これまで見過ごされてきたマンガ家、マンガ作品等の情報が明らかになり、マンガ研究のみならず、児童文化学、教育学、社会学、メディア論、表象文化論等の研究成果が期待される。